



Vol 181 「『有価証券の貸付』って何？」 色々あります、投資信託の「投資リスク」

コールセンターによくお問い合わせをいただくものの一つに、目論見書の「投資リスク」があります。大切な自分のお金を投資するのですから、基準価額の変動要因となるリスクに注目するのは当然のことですね。その中でも、インデックスファンドなどで時折記載が見られる「有価証券の貸付などにおけるリスク」についてご質問をいただくことがあります。確かに耳慣れない言葉ですが、こういったものなののでしょうか。その他の主なリスクとあわせて、確認していきたいと思います。



「投資成果」を期待するなら「リスク」は必ず付いてくる

投資信託の基準価額は日々変化します。この変動要因について、目論見書には主なリスクが掲載されています。何やらたくさん書かれていると、それを見ただけで投資をする意欲が削がれてしまう...という方もいるかもしれませんが、投資リスクは「その投資信託で期待する投資成果」と表裏一体になっていることを押さえておくのは大切です。

ファンドの投資対象が複数の資産にまたがっているなら、当然リスクもその資産ごとに発生します。リスクは投資資産や投資地域に応じて発生しますが、リスクの前に記載されている「ファンドの目的・特色」等を読んでおくことで、例えば、海外資産に投資するものであれば、為替リスクやカントリー・リスクが発生するなどの心づもりができる項目が多いことに気付くかと思います。「この投資成果を得るために生まれるリスク」だと理解して読み進めていただくといいかもしれません。

「主なリスク」の一例

価格変動リスク	株式やREIT、債券といった投資対象の資産の価格が変動するリスク
流動性リスク	取引量が少なくなることで、有価証券の売買が成立しない、あるいは希望した価格で売買ができないリスク
信用リスク	有価証券の発行体における経営不振や過大債務などにより、倒産や債務不履行等が生じるリスク
為替変動リスク	外貨建資産の通貨に対して外国為替相場が円高になった場合に生じるリスク
カントリー・リスク	投資対象国における非常事態（金融危機や政策・規制変更、戦争など）で影響を受けるリスク

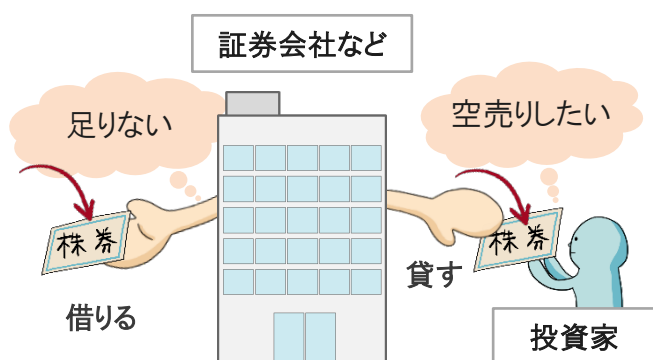
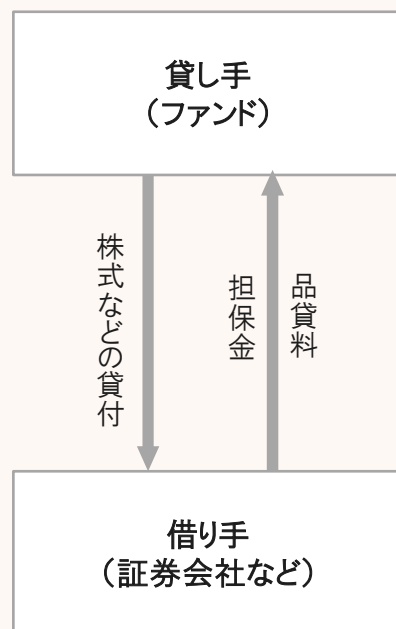
※簡易的にまとめたものです。

「有価証券の貸付などにおけるリスク」とは？

それでは冒頭で触れた「有価証券の貸付などにおけるリスク」はどうでしょう。ファンドの運用に直接関係がなさそうにも見えますし、そもそもどういうことなのでしょう。

「有価証券の貸付」とは、ファンドで保有する株や債券などを証券会社などの第三者に貸し付け、借り手からは担保金とともに、対価として品貸料(しながしりょう)を受け取る取引のこと。この品貸料はファンドにとって収益となり、パフォーマンスの向上につながります。また、有価証券を貸し付けた場合でも、その投資信託は保有しているものとみなし、資産として基準価額の計算に使われます。

「有価証券の貸付」のイメージ



この取引が発生する背景には、投資家が証券会社などから株式などを借りて行なう「信用取引」があります。証券会社は、空売りの際に貸し出せるように株式などを保有していますが、不足が出た場合には別の投資家やファンドから借り入れることでその解消を図ります。

「有価証券の貸付」を行なうにあたっては、相手先を慎重に精査するとともに担保も取っています。しかし、貸付先の倒産などで有価証券が返還されない可能性もありますので、これが「有価証券の貸付などにおけるリスク」として記載されているのです。



ファンドでは、それぞれの投資方針に則って有価証券を保有し、状況に合わせた売り買いが行なわれます。有価証券を貸し付けたことで、売りたい時に売れないという事態は避けなければなりません。

そのため、ベンチマークを上回る運用成果を目指すアクティブ運用を行なうファンドよりも、ベンチマークに連動する運用成果を目指すパッシブ(インデックス)運用を行なうファンドの方が、ファンドの構成銘柄が頻繁に入れ替わらないため「有価証券の貸付」に向いていると言えます。

アクティブファンド

ベンチマークを上回る運用成果を目指すため、構成銘柄の調整など、**有価証券の売買の頻度が比較的高い**

インデックスファンド

ベンチマークに連動する運用成果を目指すため、構成銘柄の入れ替わりが少なく、**有価証券の売買の頻度は比較的低い**

ファンドの投資方針によって異なりますが、大きく分けるとこのような特徴があります



「有価証券の貸付」は、あくまでもファンドの資産を効率的に利用しようとする補助的なものであり、あまり積極的に活用する手段ではありません。また、実際に貸し付けが行なわれた場合には、運用報告書(全体版)の「有価証券の貸付及び借入の状況」で確認することができます。

最後に

投資をするなら避けて通れない「リスク」ですが、予め「どんなリスクがあるのか」を把握することは、資産運用を行なううえで、しっかりと心構えを持つことに繋がります。先ほどの「有価証券の貸付などにおけるリスク」についても、内容が分かれば不安に思う気持ちも少し軽減されたのではないのでしょうか。

資産運用は長い道のり。リスクへの理解も深めながら、投資信託と付き合っていっていただければと思います。



nikko am

コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

日興アセットマネジメント